

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年2月9日
【四半期会計期間】	第92期第3四半期（自平成27年10月1日至平成27年12月31日）
【会社名】	株式会社ヒラノテクシード
【英訳名】	HIRANO TECSEED Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 岡田 薫
【本店の所在の場所】	奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1
【電話番号】	0745(57)0681番
【事務連絡者氏名】	常務取締役総務担当 定安 一 男
【最寄りの連絡場所】	奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1
【電話番号】	0745(57)0681番
【事務連絡者氏名】	常務取締役総務担当 定安 一 男
【縦覧に供する場所】	株式会社ヒラノテクシード東京支店 （東京都千代田区神田須田町1丁目16番地） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第91期 第3四半期 連結累計期間	第92期 第3四半期 連結累計期間	第91期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	11,022,911	10,923,443	14,514,007
経常利益 (千円)	590,857	707,087	645,410
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	387,949	459,019	445,074
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	478,011	482,550	593,449
純資産額 (千円)	20,006,228	20,408,371	20,121,665
総資産額 (千円)	27,145,472	30,487,579	25,834,967
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	25.79	30.51	29.58
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	73.70	66.94	77.89

回次	第91期 第3四半期 連結会計期間	第92期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	4.19	17.47

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、第1四半期連結累計期間より、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、「四半期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純利益」としております。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安や原油安等に伴い企業業績が堅調に推移し、設備投資額も増加傾向となりました。個人消費につきましては所得・雇用環境も改善が続いているものの、物価上昇懸念がある中において消費マインドは本格的な持ち直しの傾向には至っておらず、国内景気は不安定な状況で推移いたしました。

海外におきましては、米国では雇用環境の改善や物価上昇を考慮した利上げを実施するなど、回復基調に推移いたしました。中国の景気減速懸念に伴う設備の過剰感や株式市場の下落及び不安定な中東情勢も加わり、株式市場や為替等にも警戒感が残り世界の金融市場は不透明な状況にあります。

このような状況のもと当社グループは、徹底した品質管理と確かな技術力で新たな提案や短納期への要望にお答えし、お客様に価値ある技術を創出すべく構造改革を推し進めてまいりました。

また、受注状況につきましては、二次電池向け電極塗工装置、成膜装置及び延伸装置を中心に推移いたしました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は10,923百万円（前年同期比0.9%減）となり、利益面では営業利益は640百万円（前年同期比22.1%増）、経常利益は707百万円（前年同期比19.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は459百万円（前年同期比18.3%増）となりました。

受注残高につきましては、12,623百万円（前期末比3.2%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（塗工機関連機器）

当セグメントは、二次電池向け電極塗工装置、光学機能性フィルム製造装置関連を中心に推移いたしました。

その結果、売上高は6,256百万円（前年同期比27.3%増）となりました。また、セグメント利益は667百万円（前年同期比181.7%増）となりました。

受注残高につきましては、5,457百万円（前期末比3.3%減）となりました。

（化工機関連機器）

当セグメントは、成膜装置及び延伸装置を中心に低調に推移いたしました。

その結果、売上高は3,824百万円（前年同期比27.8%減）となりました。また、セグメント利益は396百万円（前年同期比39.0%減）となりました。

受注残高につきましては、6,810百万円（前期末比7.3%増）となりました。

（その他）

当セグメントは、染色整理機械装置、各種機器の部品の製造及び修理・改造などを行っております。

売上高は842百万円（前年同期比3.5%増）となりました。また、セグメント利益は185百万円（前年同期比3.8%減）となりました。

受注残高につきましては、354百万円（前期末比46.7%増）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた対処すべき課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、260百万円であります。
なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 生産、受注及び販売の状況

生産実績

当第3四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
塗工機関連機器	5,265,657	+16.8
化工機関連機器	3,099,627	27.6
その他	596,530	+4.9
合計	8,961,815	4.2

(注) 1. 金額は生産原価で、上記の内には外注生産によるものも含んでおります。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

受注状況

当第3四半期連結累計期間における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前期末比(%)
塗工機関連機器	6,067,953	+1.1	5,457,702	3.3
化工機関連機器	4,288,445	+46.1	6,810,956	+7.3
その他	955,722	+40.0	354,447	+46.7
合計	11,312,121	+17.6	12,623,105	+3.2

(注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
塗工機関連機器	6,256,067	+27.3
化工機関連機器	3,824,556	27.8
その他	842,819	+3.5
合計	10,923,443	0.9

(注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更及び新たに生じたものはありません。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

資金需要

当社グループの資金需要の主なものは、運転資金、法人税等の支払、設備投資、借入金の返済、配当金の支払等であります。

また、その資金は、主として自己資金により充当し、金融機関からの借入による資金調達を必要に応じて実施することで金融費用を低減するよう努めております。

総資産

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ4,652百万円増加し、30,487百万円となりました。以下において主な科目別に説明いたします。

(資産)

流動資産は前連結会計年度末に比べ4,571百万円増加し、23,925百万円となりました。その主な要因は、有価証券が2,555百万円、仕掛品が2,572百万円それぞれ増加したことによります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ80百万円増加し、6,562百万円となりました。その主な要因は、投資その他の資産が231百万円増加したこと及び有形固定資産が138百万円減少したことによります。

(負債)

流動負債は前連結会計年度末に比べ4,478百万円増加し、8,905百万円となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金が2,289百万円、前受金が2,016百万円それぞれ増加したことによります。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ112百万円減少し、1,173百万円となりました。その主な要因は、長期借入金が103百万円、役員退職慰労引当金が13百万円、退職給付に係る負債が35百万円それぞれ減少したことによります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べ286百万円増加し、20,408百万円となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益を459百万円計上したこと、配当金を195百万円支払ったことによります。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当第3四半期連結累計期間において経営者の問題認識と今後の方針について重要な変更及び新たに生じたものはありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,394,379	15,394,379	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	15,394,379	15,394,379	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日	-	15,394,379	-	1,847,821	-	1,339,654

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 350,100	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 15,036,000	150,360	-
単元未満株式	普通株式 8,279	-	-
発行済株式総数	15,394,379	-	-
総株主の議決権	-	150,360	-

（注）1. 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株（議決権10個）含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式11株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 （株）	他人名義 所有株式数 （株）	所有株式数 の合計 （株）	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合（%）
（自己保有株式） 株式会社ヒラノテクシード	奈良県北葛城郡 河合町大字川合101番地の1	350,100	-	350,100	2.28
計	-	350,100	-	350,100	2.28

（注） 当第3四半期会計期間末日現在の保有自己株式数は350,204株です。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,218,250	7,891,725
受取手形及び売掛金	5,206,478	5,334,914
有価証券	2,881,887	5,437,440
仕掛品	2,075,149	4,647,409
原材料及び貯蔵品	84,029	84,584
その他	889,478	531,333
貸倒引当金	2,081	2,395
流動資産合計	19,353,193	23,925,012
固定資産		
有形固定資産	3,454,347	3,316,343
無形固定資産	110,890	97,871
投資その他の資産		
投資有価証券	2,535,511	2,676,403
その他	381,023	471,949
投資その他の資産合計	2,916,535	3,148,353
固定資産合計	6,481,773	6,562,567
資産合計	25,834,967	30,487,579

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,447,480	4,737,095
短期借入金	-	150,000
1年内返済予定の長期借入金	485,068	504,688
未払法人税等	91,832	147,040
前受金	548,300	2,564,737
賞与引当金	181,955	56,279
製品保証引当金	71,080	67,440
その他	601,286	677,982
流動負債合計	4,427,003	8,905,263
固定負債		
長期借入金	529,684	426,613
役員退職慰労引当金	166,880	153,174
退職給付に係る負債	485,738	449,869
資産除去債務	10,252	14,236
その他	93,742	130,051
固定負債合計	1,286,298	1,173,944
負債合計	5,713,301	10,079,208
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,847,821	1,847,821
資本剰余金	1,339,722	1,339,722
利益剰余金	17,012,296	17,275,739
自己株式	407,177	407,444
株主資本合計	19,792,663	20,055,838
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	470,351	496,398
退職給付に係る調整累計額	141,349	143,865
その他の包括利益累計額合計	329,001	352,532
純資産合計	20,121,665	20,408,371
負債純資産合計	25,834,967	30,487,579

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	11,022,911	10,923,443
売上原価	9,357,361	8,961,815
売上総利益	1,665,549	1,961,628
販売費及び一般管理費	1,140,787	1,321,028
営業利益	524,762	640,600
営業外収益		
受取利息	7,623	8,474
受取配当金	43,884	38,899
為替差益	15,161	1,717
その他	15,811	31,562
営業外収益合計	82,481	80,653
営業外費用		
支払利息	7,528	8,493
売上割引	2,096	3,838
固定資産除却損	5,368	442
その他	1,394	1,391
営業外費用合計	16,387	14,165
経常利益	590,857	707,087
特別利益		
投資有価証券売却益	2,522	-
特別利益合計	2,522	-
税金等調整前四半期純利益	593,379	707,087
法人税、住民税及び事業税	114,131	206,737
法人税等調整額	91,298	41,331
法人税等合計	205,430	248,068
四半期純利益	387,949	459,019
親会社株主に帰属する四半期純利益	387,949	459,019

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	387,949	459,019
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	91,849	26,047
退職給付に係る調整額	1,787	2,516
その他の包括利益合計	90,062	23,531
四半期包括利益	478,011	482,550
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	478,011	482,550
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
受取手形	- 千円	111,067千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
減価償却費	279,500千円	241,335千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	255,759	17.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	75,222	5.00	平成26年9月30日	平成26年12月4日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	75,222	5.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	120,354	8.00	平成27年9月30日	平成27年12月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	塗工機関連機器	化工機関連機器	その他	
売上高				
外部顧客への売上高	4,913,220	5,295,527	814,163	11,022,911
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-
計	4,913,220	5,295,527	814,163	11,022,911
セグメント利益	236,935	650,900	192,992	1,080,828

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,080,828
全社費用(注)	556,065
四半期連結損益計算書の営業利益	524,762

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	塗工機関連機器	化工機関連機器	その他	
売上高				
外部顧客への売上高	6,256,067	3,824,556	842,819	10,923,443
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-
計	6,256,067	3,824,556	842,819	10,923,443
セグメント利益	667,504	396,959	185,725	1,250,189

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
 主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,250,189
(注) 全社費用	609,588
四半期連結損益計算書の営業利益	640,600

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	25円79銭	30円51銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	387,949	459,019
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	387,949	459,019
普通株式の期中平均株式数(株)	15,044,565	15,044,297

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第92期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)中間配当については、平成27年11月6日開催の取締役会において、平成27年9月30日を基準日として、株主又は登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	120,354千円
1株当たりの金額	8円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成27年12月4日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月2日

株式会社ヒラノテクシード

取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 後藤 紳太郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 南方 得男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒラノテクシードの平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒラノテクシード及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。